

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290500061		
法人名	一般社団法人 のどか		
事業所名	グループホーム のどかの家 熱海		
所在地	静岡県熱海市泉415-169		
自己評価作成日	平成27年2月26日	評価結果市町村受理日	平成27年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2290500061-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・運営理念である『そとよりそい 共に寄りそう』を基盤に「食事を楽しむためにできる具体的支援」「用を足すためにできる具体的支援」「入浴を楽しむためにできる具体的支援」についてマニフェストを掲げ、方向性を一つに目に見える支援を実践しています。 ・施設に入っても「諦めなくていい」本人がこだわっている事、大切にしている事を続けられる環境づくりに心がけ、今までの生活の延長で、自分らしく暮らしていけるよう支援しています。 ・地域の行事等に積極的に参加し地域の方との交流を大切にしています。 ・毎月施設内にて勉強会を開き職員の質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>接遇・ターミナル・感染症・皮膚疾患等年間計画を立て、勉強会をミーティング時に職員が二人一組になり担当して行っていて、職員の資質の向上につなげている。若い職員はパソコン操作が堪能なため、運営推進会議に入居者の様子や行事をスライドに見てもらったところ、わかり易いと好評であった。また25年度の事故分析を、事故の時間帯をグラフにする等独自に分析してグラフ化したところ、客観的に傾向が解かり対策をしている。シフトに工夫し質を落とさないようにしている。地域の広場にこいのぼりを見学に行ったり、近所の特別養護老人ホームに夏祭りに出かけたり、文化の日には大きな作品を出展するため日頃から入居者で作品作りをしている。地域の防災訓練へも職員や入居者が参加し協力関係を築いているため、事業所の避難訓練にも近所の方が参加してくれている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をリビングへ掲げ、いつでも確認出来るようにしている。また「食事」「入浴」「排泄」について理念を具現化しマニフェストを作成。具体的な内容になっているため実践に繋がっている。	理念を作った当初の職員はもう居ないが、強化する所を具体的に掲げることによって行動しやすくしている。理念は会議時に振り返っている。リビングには理念と月間目標が掲げられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	推進会議や消防訓練に参加していただき交流を図っている。「のどか便り」を毎月発行して回覧板でまわしていただく事で施設の様子を伝えている。	地域の行事に参加している。近隣の方が協力的で防災訓練に参加してくれ、運営推進会議にも意見を出してくれる。自治会長より、行事の予定を先に知らせてくれたり、施設のたよりを地域に回覧板で回してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトの職員による「認知症サポーター研修」を自治会や小学生向けに実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や外出時の写真をスライドショーにまとめ、お客様の様子を映像化して報告している。地域の特徴を踏まえた意見を住民の方からいただき、サービス向上につなげている。	2か月に1回開催し、参加家族を迎えに行っている。前年度の事故を分析し時間帯をグラフ化し報告する。事故のない時間が解かり業務に繋げる事が出来た。「散歩時挨拶だけでなく積極的に話しかけてほしい」、「防災訓練の時入居者に『自立』等の目印をつける」等委員の方から意見がでた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者の担当者に毎月手紙と新聞を届け、お客様の様子や施設の取り組みを伝えている。また、施設の運営推進会議に参加してもらい、施設の様子の報告を行っている。	生活保護者の急な受け入れも対応している。健康管理ができ、元気になっているケースがある。市よりの研修情報は手紙で知らせてくれる。保健所の研修には交代で職員が参加している。社会福祉課からの紹介で虐待を受けた方の受け入れを行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し身体拘束について職員が理解できるように努めており、介護保険指定基準において禁止の対象となる具体的な行為は玄関の施錠等を含め行っていない。また、NGワードを設定しスピーチロックを行わないよう意識している。	グループホーム施設長会でNGワードを決めている。毎月施設長が研修に出て、気になる言葉を拾った。立地条件上、外へ出ると危険のため入り口の戸の上にブザーをつけた。フローアを離れる時は職員同士声掛けして対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを周知している。社会福祉課の相談により虐待を受けている方の受け入れを行っている。他事業所からも虐待を受けている方の入居相談等をうけており、受け入れの態勢にある。		

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を設けて、普段あまり触れない内容や重要な点を職員全体で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時には必ずキーパーソンとなる方に同席していただき、口頭で説明を行なったうえでサインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月ごとに会議を開催して有識者や近隣の方々への理解を求めている。又、問題や意見をその場で話し合っている。意見箱を設置している。	家族は遠方の方が多い。バーベキューや運動会・クリスマス会等の行事の参加を促している。家族から「訪問した時同じ服を着ていたので気になる。」や、「非常階段があるといい」等の意見がでた。誕生日には好物のお寿司やケーキを買ってほしい等の依頼に答えている。意見箱はある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社役員に直通で送れるメールアドレスを設置している。定期的に意見を求めることを行なっている。会議ではそれまでの成果を踏まえて意見を話し合い、施設運営に反映している。	日頃から管理者や職員間で意見を言うようにしている。今のメンバーでできるように工夫している。職員の勤務時間をバスの時間に合わせて設定するなどの工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入しており職員は自己の目標を立てモチベーションを向上させることが出来る仕組みとなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修、地域の研修などに参加し、参加できなかった職員には学んできた内容を伝え、実践で活かせるようにしている。また、介護キャリア段位制度を取り入れレベル認定を行う方向にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行う勉強会などに参加しサービスの質の向上に努めている。また、小地域ケア会議や施設部会に出席し他事業所の管理者、ケアマネ等とのネットワークづくりも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談に於いての身体状況や要望事項等の情報を職員に伝達し、共有意識のもと会話や声掛けに配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学を勧め、施設の状況を理解して頂くと共にご家族が困っていることや不安なこと、要望等を伺い出来る限り沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族との面談の際、十分な時間をかけ希望されることに耳を傾けながら、必要としていることを見極める努力をしている。その中で他のサービスの方が良いと判断した場合は他のサービスを勧めることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい暮らしを共にしていくため要望を取り入れ、日常の家事等生活の中で出来ることを見つけ、他者や職員と一緒にさせて頂いている。些細な会話でのやり取りを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	推進会議や行事開催の案内をさせて頂き出席を依頼している。また、毎月施設での様子を写真や手紙で伝えている。面会時や電話でご本人に対する希望や要望を伺うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の友人との電話や手紙の取次、外出に職員と一緒に掛けている。また、入院している家族の面会にも職員と一緒に掛けている。ご本人が大切にしてきた馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。	散歩で町に出た時見つけた駄菓子屋を入居者が気に入って、1時間位かかる所へ歩いて買いに出かけたり、誕生日の夕食に仲の良い人と出かけている。書ける人には年賀状の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々な場できっかけ作りをしている。(団樂の場所を提供し談話されたり、共同作品をつくる機会を提供するなど)。また、気の合う方々との外出の機会も出来る環境である。		

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後入居中に撮った写真をお渡ししている。その後は特に必要がなければこちらからの取り組みはないが、ご本人様・ご家族からの相談等あれば対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日歩きたいという方の希望に沿う為にカンパレンスを開き、全職員で統一した対応を行う等一人ひとりの思いや暮らし方の希望の把握と実現に努めている。	入居者の希望に添えるように全職員が話し合っており、統一して対応している。時には上下階でお茶に誘う等工夫している。困難な場合は表情をみて意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には面会に行きご本人や家族から情報を得ようとしている。これまでのサービス利用の経過等については、担当ケアマネや相談員に情報提供を依頼し入居前の暮らしについて把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前、入居後のアセスメントよりスタッフ間で情報を共有し、その時に最も適切だと思われる支援の実践に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望を聞き必要時には医師や看護師の意見も聞いて担当者会議で共有し、ご本人、家族の希望を取り入れた介護計画書を作成するよう努めている。	来所が少ない家族には電話や手紙で意向を聞いている。看護師や訪問医師の意見と担当職員の意見を聞き、ユニット会議で全職員の意見を聞いて作成している。家族には報告し確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の生活の中の状況の変化など記録し、情報を共有して即時支援の見直し、プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の学校行事や町内の行事などに参加。往診とは別に他科受診の希望がある方の対応や入院されているご家族への面会、知人のお宅へ遊びに行きたいという方の対応等出来る限りその方の希望に沿えるよう支援している。		

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や講座、消防訓練に参加し地域の方と関わりを持って楽しんでいる。また、2か月に1回の運営推進会議に出席して頂き施設やお客様について理解して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科往診は月2回、皮膚科も必要に応じて対応している。オンコール対応により緊急時に指示を仰いでいる。	訪問医は毎日診てくれるので、継続して対応してもらえる。またいつでも電話相談ができる。歯科は半年に一度検診し、治療があると往診してくれる。他科受診は職員が対応し、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師(兼務)を週1回配置し健康管理を行っている。看護記録を記入して介護職との情報の共有をしている。急な体調変化が起きた際にも看護師に連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	着替えの交換などにて面会に行き、ご本人の状態の把握に努めている。施設の住環境の情報を病院側に提供して退院後のご本人の負担を減らしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルについての説明をして同意書を頂いている。また、定期的に同意の確認をしている。クリニックと連携を取ってご本人の負担を軽減している。	終末期を施設で過ごす希望者が多く、これまでに何人か看取りを経験している。訪問医が状態をみて家族に説明し、職員と終末期に向けた方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを常備しており、いつでも確認出来る。防災訓練や勉強会を通して職員のスキルアップを図っている。また、職員は個々に救急救命講習に参加しフィードバックしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施し災害時の避難、対応が出来るようにしている。また、近所の方にも訓練に参加して頂き協力体制を築いている。	年3回、1度は地域の人の参加を得て行った。夜間の火災を想定し、1階2階の職員が一人ずつ、他の職員は近所の住民となつての訓練をし、報告書を作成した。地域の防災訓練にも参加している。備蓄は3日分用意している。	地域との協力体制はできているが、季節想定等で工夫をして継続することが望ましい。また、運営推進会議で出た反省点を改善する取り組みに期待する。

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様は名字や名前にさんを付けて呼んでいる。目上の人ということに常に意識し慣れによる友達口調や上からの口調にならないよう意識している。また、お客様の情報について職員間でむやみに話さないよう留意し、申し送りもお客様の耳に触れないよう配慮している。	常に入居者をお客様ととらえ、良い距離感を保ちながら人格を尊重し、優位に立たない様意識している。出来ていないと気づいた時は個別に注意し、会議で全職員に伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の要望や日常生活の中でご自身の意思表示が出来るよう問いかけをしている。認知症が進んで何度も繰り返し同じ事を言う方に対してもその都度お話を聴く姿勢に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の会話や様子から一人ひとりのペースを把握し、居室で過ごしたい方、リビングでテレビを見たい方、散歩に行きたい方、団体行動が苦手な方には無理強いないというように個々のペースや希望を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問美容を利用している。希望があれば、外の美容室を利用することも出来る。出掛けることが出来ない方に対しては、おしゃれな洋服を選び気分が明るくなるよう働きかけたり、マニキュアを塗る等喜んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好きな物や嫌いな物を把握し、嫌いな物は提供しないようにしている。嚥下の悪い方や歯のない方は食事形態を工夫し食事を楽しんで頂いている。また、配膳や下膳、後片付けの出来る方には職員と一緒に頂いている。	食材を仕入れ調理を行っている。刻みも個々に対応している。入居者は食べる事が好きで楽しみにしている。年1回ボランティアの寿司屋が来訪し、目の前で握ってくれる。誕生日や行事の時には外に食べに行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量やカロリー制限のある方に対しては小さい器を使用し見た目に量が気にならないよう配慮している。水分量は1日1200cc以上を目安に日中の水分量が1000cc以下の場合や夏場は夜間トイレ後などに摂取して頂く等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の往診により口腔内の健康に気をつけている。口腔ケアは毎食後行っており、磨き残しのある方や介助に必要な方は職員にて実施している。		

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護観察記録に排泄記録を記入して排泄パターンや排便状態を把握している。可能な限りトイレにて排泄を行い、オムツの使用時間を減らしている。	声かけをこまめにし、排泄のサインを見守って支援している。夜おむつを使用している方でも日中は立位ができるので、トイレでの排泄支援を継続している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護観察記録にて便秘の把握を行い、水分補給や下剤の調整を行っている。また、牛乳や野菜ジュースを飲む事で排便のある方には毎朝提供したり入浴時にマッサージを行う等し自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望をお聞きして対応している。1日おきに入りたい、夕方の方がよい等、勤務体制の可能な限りご本人の希望に応じている。シャンプーなどは好みに対応可能である。	夜の入浴を希望する人にも対応するが、現在はいない。週2回の入浴で、同姓介助し、シャンプー等今まで使用していたものを希望する人には対応している。拒否者には人を変えるなど工夫している。最初は入るのを嫌がっていても、入ってしまえばゆっくり入りたがる入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体操などをして夜に安眠がとれるように支援している。ご本人の体調、体力に合わせて昼寝も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情報をセットしていつでも確認出来るようになっている。配薬時には職員2名で確認し服薬後1時間以内に薬の空き袋を捨てる等飲み忘れや間違いのないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除、洗濯もの、食器洗いなどなど、日常生活の中でお手伝いをしていただいている。誕生日に好きな物を食べに出掛けたり、ドライブや散歩など楽しみや気分転換機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族からの申し出があれば極力外出出来るように協力している。天気に左右されるが可能であれば外気に触れる機会を作っている。町内会のバス旅行に参加する等地域の方の理解や協力も得られている。	家族と一緒に外出に出かけたり、自宅へ連れて行くこともある。町内会の鎌倉日帰りバス旅行に入居者2人が職員2人と参加した。町内の方は協力的である。外出しない時は駐車場でくつろいだり、体操をしている。	

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能なお客様は金銭を紛失しても、家族や保証人の了解を得て買物等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダーを一緒に作ったり、季節に合わせた壁面飾りを作るなど工夫している。また、共有部分は毎日掃除を行い清潔に心がけエアコンは適温を保ち、天気の良い日は窓を開け暖かい空気を取り入れ季節を感じて頂けるようにしている。	壁面作りは福祉展に合わせ作成していて、手の込んだ根気のいる作品が飾ってある。昼食時のテレビは見たい人がいればつけるが、音に配慮している。湿度はタオルを干すなどで調整し、景色が楽しめる南側の窓側にソファが置かれくつろげる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士の座席の配置をしたり、居室にイスを置き共に過ごせる空間がある。また、1階フロアと2階フロアはいつでも行き来できる為、仲の良い方やご夫婦での行き来等支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物を持ち込んで頂き、安心して暮らして頂けるよう心掛けている。また、気の合う方がお互いの居室を訪れ会話したり、テレビを見る場面もある。	自宅から大型のテレビを持ち込んだ居室には、人が集まって寛いでいる。収納タンスが備え付けで、動線に配慮しベッドの位置を変えている。趣味のお花で部屋中を飾って楽しんでいる入居者がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは車椅子の方でも分かるよう低い位置にも表示している。また、居室内での行動を制限しないよう万が一転んでも、大事に至らないよう床にマットを敷いたり、プロテクターの使用をする等、工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290500061		
法人名	一般社団法人 のどか		
事業所名	グループホーム のどかの家 熱海		
所在地	静岡県熱海市泉415-169		
自己評価作成日	平成27年2月26日	評価結果市町村受理日	平成27年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2290500061-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・運営理念である『そっとよりそい 共に寄りそう』を基盤に「食事を楽しむためにできる具体的支援」「用を足すためにできる具体的支援」「入浴を楽しむためにできる具体的支援」についてマニフェストを掲げ、方向性をもつて目に見える支援を実践しています。
 ・施設に入っても「諦めなくていい」本人がこだわっている事、大切にしている事を続けられる環境づくりに心がけ、今までの生活の延長で、自分らしく暮らしていけるよう支援しています。
 ・地域の行事等に積極的に参加し地域の方との交流を大切にしています。
 ・毎月施設内にて勉強会を開き職員の質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をリビングへ掲げ、いつでも確認出来るようにしている。また「食事」「入浴」「排泄」について理念を具現化しマニフェストを作成。具体的な内容になっているため実践に繋がっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議や消防訓練に参加していただき交流を図っている。「のどか便り」を毎月発行して回覧板でまわしていただく事で施設の様子を伝達している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトの職員による「認知症サポーター研修」を自治会や小学生向けに実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や外出時の写真をスライドショーにまとめ、お客様の様子を映像化して報告している。地域の特徴を踏まえた意見を住民の方からいただき、サービス向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者の担当者に毎月手紙と新聞を届け、お客様の様子や施設の取り組みを伝えている。 また、施設の運営推進会議に参加してもらい、施設の状況報告を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し身体拘束について職員が理解できるよう努めており、介護保険指定基準において禁止の対象となる具体的な行為は玄関の施錠等を含め行っていない。また、NGワードを設定しスピーチロックを行わないよう意識している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを周知している。社会福祉課の相談により虐待を受けている方の受け入れを行っている。他事業所からも虐待を受けている方の入居相談等をうけており、受け入れの態勢にある。		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を設けて、普段あまり触れない内容や重要な点を職員全体で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時には必ずキーパーソンとなる方に同席していただき、口頭で説明を行なったうえでサインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月ごとに会議を開催して有識者や近隣の方々への理解を求めている。又、問題や意見をその場で話し合っている。意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社役員に直通で送れるメールアドレスを設置している。定期的に意見を求めることを行なっている。会議ではそれまでの成果を踏まえて意見を出し合い、施設運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入しており職員は自己の目標を立てモチベーションを向上させることができる仕組みとなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修、地域の研修などに参加し、参加できなかった職員には学んできた内容を伝え、実践で活かせるようにしている。また、介護キャリア段位制度を取り入れレベル認定を行う方向にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行う勉強会などに参加しサービスの質の向上に努めている。また、小地域ケア会議や施設部会に出席し他事業所の管理者、ケアマネ等とのネットワークづくりも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談に於いての身体状況や要望事項等の情報を職員に伝達し、共有意識のもと会話や声掛けに配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学を勧め、施設の状況を理解して頂くと共にご家族が困っていることや不安なこと、要望等を伺い出来る限り沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族との面談の際、十分な時間をかけ希望されることに耳を傾けながら、必要としていることを見極める努力をしている。その中で他のサービスの方が良いと判断した場合は他のサービスを勧めることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい暮らしを共にしていくため要望を取り入れ、日常の家事等生活の中で出来ることを見つけ、他者や職員と一緒にさせて頂いている。些細な会話でのやり取りを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	推進会議や行事開催の案内をさせて頂き出席を依頼している。また、毎月施設での様子を写真や手紙で伝えている。面会時や電話でご本人に対する希望や要望を伺うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の友人との電話や手紙の取次、外出に職員と一緒に掛けている。また、入院している家族の面会にも職員と一緒に掛けている。ご本人が大切にしてきた馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々な場できっかけ作りをしている。(団欒の場所を提供し談話されたり、共同作品をつくる機会を提供するなど)。また、気の合う方々との外出の機会も出来る環境である。		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後入居中に撮った写真をお渡ししている。その後は特に必要がなければこちらからの取り組みはないが、ご本人様・ご家族からの相談等あれば対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日歩きたいという方の希望に沿う為にカンファレンスを開き、全職員で統一した対応を行う等一人ひとりの思いや暮らし方の希望の把握と実現に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には面会に行きご本人や家族から情報を得るようにしている。これまでのサービス利用の経過等については、担当ケアマネや相談員に情報提供を依頼し入居前の暮らしについて把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前、入居後のアセスメントよりスタッフ間で情報を共有し、その時に最も適切だと思われる支援の実践に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望を聞き必要時には医師や看護師の意見も聞いて担当者会議で共有し、ご本人、家族の希望を取り入れた介護計画書を作成するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の生活の中の状況の変化など記録し、情報を共有して即時支援の見直し、プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の学校行事や町内の行事などに参加。往診とは別に他科受診の希望がある方の対応や入院されているご家族への面会、知人のお宅へ遊びに行きたいという方の対応等出来る限りその方の希望に沿えるよう支援している。		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や講座、消防訓練に参加し地域の方と関わりを持って楽しんでいる。また、2か月に1回の運営推進会議に出席して頂き施設やお客様について理解して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科往診は月2回、皮膚科も必要に応じて対応している。オンコール対応により緊急時に指示を仰いでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師(兼務)を週1回配置し健康管理を行っている。看護記録を記入して介護職との情報の共有をしている。急な体調変化が起きた際にも看護師に連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	着替えの交換などにて面会に行き、ご本人の状態の把握に努めている。施設の住環境の情報を病院側に提供して退院後のご本人の負担を減らしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルについての説明をして同意書を頂いている。また、定期的に同意の確認をしている。クリニックと連携を取ってご本人の負担を軽減している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを常備しており、いつでも確認出来る。防災訓練や勉強会を通して職員のスキルアップを図っている。また、職員は個々に救急救命講習に参加しフィードバックしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施し災害時の避難、対応が出来るようにしている。また、近所の方にも訓練に参加して頂き協力体制を築いている。		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様は名字や名前にさんを付けて呼んでいる。目上の人ということを常に意識し慣れによる友達口調や上からの口調にならないよう意識している。また、お客様の情報について職員間でむやみに話さないよう留意し、申し送りもお客様の耳に触れないよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の要望や日常生活の中でご自身の意思表示が出来るよう問いかけをしている。認知症が進んで何度も繰り返し同じ事を言う方に対してもその都度お話を聴く姿勢に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の会話や様子から一人ひとりのペースを把握し、居室で過ごしたい方、リビングでテレビを見たい方、散歩に行きたい方、団体行動が苦手な方には無理強いないというように個々のペースや希望を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問美容を利用している。希望があれば、外の美容室を利用することも出来る。出掛けることが出来ない方に対しては、おしゃれな洋服を選び気分が明るくなるよう働きかけたり、マニキュアを塗る等喜んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好きな物や嫌いな物を把握し、嫌いな物は提供しないようにしている。嚥下の悪い方や歯のない方は食事形態を工夫し食事を楽しんで頂いている。また、配膳や下膳、後片付けの出来る方には職員と一緒に行って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量やカロリー制限のある方に対しては小さい器を使用し見た目に量が気にならないよう配慮している。水分量は1日1200cc以上を目安に日中の水分量が1000cc以下の場合や夏場は夜間トイレ後などに摂取して頂く等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の往診により口腔内の健康に気をつけている。口腔ケアは毎食後行っており、磨き残しのある方や介助に必要な方は職員にて実施している。		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護観察記録に排泄記録を記入して排泄パターンや排便状態を把握している。可能な限りトイレにて排泄を行い、オムツの使用時間を減らしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護観察記録にて便秘の把握を行い、水分補給や下剤の調整を行っている。また、牛乳や野菜ジュースを飲む事で排便のある方には毎朝提供したり入浴時にマッサージを行う等し自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望をお聞きして対応している。1日おきに入りたい、夕方の方がよい等、勤務体制の可能な限りご本人の希望に応じている。シャンプーなどは好みに対応可能である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体操などをして夜に安眠がとれるように支援している。ご本人の体調、体力に合わせて昼寝も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情報をセットしていつでも確認出来るようになっている。配薬時には職員2名で確認し服薬後1時間以内に薬の空き袋を捨てる等飲み忘れや間違いのないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除、洗濯もの、食器洗いなどなど、日常生活の中でお手伝いをしていただいている。誕生日に好きな物を食べに出掛けたり、ドライブや散歩など楽しみや気分転換機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族からの申し出があれば極力外出出来るように協力している。天気は左右されるが可能であれば外気に触れる機会を作っている。町内会のバス旅行に参加する等地域の方の理解や協力も得られている。		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能なお客様は金銭を紛失しても、家族や保証人の了解を得て買物等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダーを一緒に作ったり、季節に合わせた壁面飾りを作るなど工夫している。また、共有部分は毎日掃除を行い清潔に心がけエアコンは適温を保ち、天気の良い日は窓を開け暖かい空気を取り入れ季節を感じて頂けるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士の座席の配置をしたり、居室にイスを置き共に過ごせる空間がある。また、1階フロアと2階フロアはいつでも行き来できる為、仲の良い方やご夫婦での行き来等支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物を持ち込んで頂き、安心して暮らして頂けるよう心掛けている。また、気の合う方がお互いの居室を訪れ会話したり、テレビを見る場面もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは車椅子の方でも分かるよう低い位置にも表示している。また、居室内での行動を制限しないよう万が一転んでも、大事に至らないよう床にマットを敷いたり、プロテクターの使用をする等、工夫している。		